

事業所名

スマートキッズプラス川崎(児童発達支援)

支援プログラム

作成日

2025年

1月

30日

法人(事業所)理念		教育の力により、一人ひとりの可能性を最大限支援することによって、共生社会の実現に貢献します			
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に課題に取り組めるよう、子ども自身の力を信じ、思いに寄り添った関わりをもつ。 社会生活に必要な力を育むために、一人ひとりに合わせた課題をスモールステップで設定し、成功体験に繋げる。 地域や関連機関と密接に連携し、子どもとその家族に最適な支援を検討し、提供を行う。 			
営業時間		13時00分から	19時00分まで	送迎実施の有無	
		あり なし			
支援内容					
支援方法		個別課題		集団・小集団課題	
本人支援	健康・生活	心と身体が疲れたときの対処法を知る課題 食具、筆記具等生活で使用する物の練習		教室に慣れ、安心して通うためのスケジュールの理解と流れに合わせた活動(〇〇教室ツアー、この前になにができるかな?等) 健康的な生活を送るための基本的な生活習慣・良いルーティンを知る活動	
	運動・感覚	指導員の動きや他者の行動の理解と模倣(指・身体の動き)の課題 身体全体の機能向上のための粗大運動(例:ハードル、サーキット運動等)の課題 指先の機能の向上のための微細運動(例:洗濯ばさみ、プットイン等)の課題		指先の感覚や操作に関わる活動(粘土、紙やぶき、箱の中身はなんだろう?等)模倣や体幹、粗大運動に関わる活動(体操、ダンス、ボール運動等) 指先の操作や巧緻性のための微細運動(製作等)	
	認知・行動	数字の理解や計算の習得に関わる課題 物の概念(長さ・大きさ等)の獲得に関わる課題 見通しを持つことで安心して過ごせるようスケジュールや構造化への理解の課題		数字の理解に関わる活動(全部でいくつ?、数字当てゲーム、ビンゴゲーム等) 興味・関心の幅を広げるための活動(これってなんだ?、好きな物どれだ?等) 記憶保持に関わる活動(覚えて真似っこ、神経衰弱、山手線ゲーム等)	
	言語・コミュニケーション	文字や文章の読み書きの理解のための課題 コミュニケーションスキルの獲得・向上のための(指差し、身振り、サイン等)の課題 人との相互作用によるコミュニケーションとしての1対1での関わり課題		口頭での指示理解や説明内容の理解のための活動(スリーヒントクイズ、メモをとってみよう) 人との相互理解のコミュニケーション活動(顔き、拍手、OKサインの活用等) 意思表示の言語と選択のための活動(はい・いいえ・どちらでもない等)	
	人間関係・社会性	社会でのルール理解や他者との関わりに関する課題(SST) 自身の感情理解やコントロールとしての切替・クールダウンに関する課題 集団への参加や集団での指示理解のための課題		自己理解・他者理解のための活動(自己紹介をしてみよう、気持ちの良い言い方・伝え方、クッション言葉、アサーション等)他者と自分の関係性や距離感の理解のための活動(パーソナルスペース、プライベートゾーン) 複数の利用者同士の適切な関わり方の理解のための活動(貸し借り、勝ち負けのあるゲーム等)	
家族支援		保護者との面談や支援内容の共有の時間を通して、発達段階における基本対応や特性に関する基本情報の提供を行い、家庭で可能な適切な対応に関して助言を行う。 主たる養育者の心的負担軽減のため、日ごろの子育ての悩みや生活の中での対応困難さについて話を聞き、対応についてできることは何か、具体的に一緒に考える。共に試行錯誤しつつ、必要に応じて他相談機関を紹介する等しながらご家族全体の健康面を含めた支援を行っていく。		移行支援	今できるようになっておきたい事、将来できるようになりたいことを整理し、行っている当事業所での支援内容を学校や他事業所と情報共有し、同じ目標のもと支援を行えるようにする。
地域支援・地域連携		他事業所での支援の様子を確認し、目標のレベル感の調整と統一を行うことで、日常生活に活かしていく。 各機関での対応や様子を確認し、日常生活でその対応を活かせるように保護者を含めて連携していく。		職員の質の向上	経験年数別の階層別療育研修・組織人研修、虐待防止研修、感染症対策防止研修等の実施。 心理士等専門家を交えたミーティング、事例検討の定期実施。
主な行事等		避難訓練(火事、地震、水害、防犯等)、課外活動(レストラン学習、公園へ行こう、買い物学習)、調理活動(おにぎり作り、お菓子作り)、保護者会、その他			